



## OTC薬を上手に使おう…合う薬・合わない薬⑦ 皮膚薬

「合わない薬」を避け「合う薬」を選んで、セルフメディケーションを上手におこなうためのポイント

- ① 薬を服用(使用)する人の体質に合っているかどうか  
② 薬を服用(使用)する人の症状(病気)に合っているかどうか

夏本番ともなると、虫さされやあせもなど、さまざまな皮膚のトラブルが発生します。これらの皮膚トラブルでは、よほどひどくない限りまず自分で手当てすることが多いので、OTC薬を用いたセルフメディケーションが最も大事な分野でしょう。

No.4-8では、皮膚トラブルのうち「水虫」について、間違っただ当てをしないための注意点について書きました。ここでは、「薬が合うか、合わないか」の視点から書いてみます。

まず、上記ポイント②のケース、薬が症状に合っているかどうかを見ていきます。

市販されている皮膚外用薬には、大きく分けて3種類の薬剤が使われています。

- ① 皮膚に起きている炎症を抑える薬剤…虫さされ、かぶれ、やけど、湿疹などに用いる
- ② カビやウイルスの増殖を抑える薬剤…水虫、タムシなど、あるいはヘルペスに用いる
- ③ 化膿を抑える薬剤…①や② に化膿が加わったとき、あるいは予防のために用いる

以上のことから、薬が症状に合うかどうかは、起きているトラブルの原因が何かによって決まることが分かります。とは言ってもこれは素人には難しいことが多いのです。

虫に刺された、何かに触った、やけどをしたなど、原因がはっきりしている場合は適切な薬を選べますが、見た目は同じようでも原因が異なる皮膚症状はいろいろあります。

例を挙げてみていきましょう。

①の作用をもつ薬剤には、副腎皮質ホルモン薬(ステロイド薬)、抗ヒスタミン薬などがあります。ステロイド薬は炎症を抑える作用が強く良く効きますが、副作用が出やすい薬です。

★Aさんは、誤ってポットのお湯を手首の内側に垂らしてしまい、赤くひりひりしてちょっと水ぶくれが出来ました。家に常備していた軟膏をそっと塗ってガーゼで覆っておいたところ、痛みも水ぶくれも収まり自然に治癒しました。Aさんが塗った軟膏はステロイド薬を含むものでした。熱による炎症に対してステロイド薬が効果的に効いた例です。

★Bさんは、疲れがたまっていてちょっとカゼ気味でした。気がつくとも上唇の上がひりひりして赤くなり、ブツブツと水ぶくれのようになってきたので、前に湿疹が出たときに薬剤師に勧められて買ったクリーム剤をぬっていました。翌日さらにひどくなったので薬局に行って相談しました。薬剤師は口唇ヘルペスと判断しましたが、初めてののであることと、患部が大きくなっていたので皮膚科受診を奨めました。Bさんが塗った薬もステロイド薬でしたが、ヘルペスウイルスによる症状には使ってはいけない薬剤です。

以上、薬の成分と症状について書きましたが、実は薬剤に含まれる主成分以外の防腐剤(保存剤)にアレルギー症状を示す例もあります。

皮膚トラブル解消の基本は「こじらせない」ことです。自己流になりがちな皮膚疾患の手当ですが、正しく使ってこそ本当のセルフメディケーションです。

